

日経MJ 2016年 9月 7日付

# 働き方改革で大切なこと

「3%コストカットするのは大変なことだが、30%のコットは可能かもしれない」。これは「いぶん昔に、あるメーカーの生産担当の方から聞いた話だ。乾いた雑巾を絞るようにコスト削減をしていくことは簡単なことではない。「3%は大変」という発言はそれを指している。しかし仕事の手順や工場のレイアウトなどを根本から見直すことがあるといふのだ。

この発言は、日本経済の全体の生産性を上げるという話にも通じると思う。安部内閣が経済政策の重点課題としてあげている働き方改革はその典型である。日本の労働に関するデータを並べてみると、改めて驚かされることが多い。経済協力開発機構(OECD)



伊藤元重の

## エコノウオッチ

諸国の中で、日本人の平均睡眠時間は女性で最長、男性で韓国について下から2番目に短い。長く眠ればよいというものではないのかもしれないが、睡眠を削って疲弊している人の姿が思い浮かぶ。

ちなみに日本人は労働時間も長い。週50時間以上働くことを超長時間労働と呼ぶが、その割合は男女ともOECDの平均を大きく上回っている。

日本人男性の家事・育児を行う時間は欧米の主要国に比べて半分以下であり、これが女性の家事負担を重くし、社会進出の阻害要因ともなっている。OECDの対日審査報告によると、「日本のワーク・ライフ・バランスはOECDの中で最低水準にあり、これが日本の低出生率の原因となっ

# 労働時間より生産性重視

ている」となっている。こうしたことを抜本的に改革しない限り、日本は豊かな経済社会を築くことはできない。睡眠時間を削ってまでがんばって、労働生産性を上げることができない。好ましいワーク・ライフ・バランスが実現できないようでは持続的な成長を続けることもできない。

長時間労働を大幅に是正し、男性の家事・育児への参加時間を増やし、女性の職場での活躍を促進する。こうした改革で、一人あたりの労働時間は大幅に短くなるかもしれないが、労働生産性は大きく上昇することが期待される。日本よりも年間労働時間が20%前後も少ないドイツの時間あたり生産性(購買力平価で換算)が日本よりも50%近くも高いことの意味をよく考える必要がある。

進めていくことは決して簡単なことではない。非正規労働者も組合も、大企業も中小企業も、男性も女性も、若者もシニアも、すべての人が満足する改革を実現することは容易なことではない。働き方はすべての人の生活に関わることだからだ。だから総論賛成・各論反対ということにもなりかねない。

重要なことは、これまでのやり方を根本的に改めることの重要性をより多くの人が理解することだ。今のままの状態を続けられれば、睡眠時間を削って低い生産性の労働を続け、女性は家事負担で活躍の場を得られず、劣悪なワーク・ライフ・バランスの中では少子化はいっこうに是正されない。それでは、日本の明るい未来を描くことは不可能である。

働き方改革は様々な立場の人が関わってくるので、(学習院大学国際社会科学部教授)